



第3回エネルギーセミナー

わかりやすく学ぶエネルギー学校

◎本紙面は2024年2月28日(水)に開催された、
オンラインセミナーの講演から抜粋・再構成しています。

気候変動問題について学ぶ

Zoom
オンライン
セミナー

PR

福井県環境・エネルギー懇話会では、エネルギーや環境問題をめぐる現状と課題を整理し、体系的に学ぶ3回シリーズのセミナーを実施しています。
今年度最終回は、メイン講師の竹内純子氏に加え、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)報告書」の執筆者である江守正多氏を招へい。気候変動問題について学びました。

講演1

国連気候変動交渉の潮流とGX

メイン講師



たけうち すみこ
竹内 純子氏

NPO法人
国際環境経済研究所
理事・主席研究員

GXの背景となる さまざまな課題

気候変動問題は環境問題といわれるが、エネルギー問題であり、経済問題でもあります。気候変動問題を引き起こす温室効果ガスは、エネルギーの利用に伴って排出されるCO₂が大部分を占めており、経済活動はエネルギーを必要とするからです。

しかし政策策定において、エネルギー分野は「フォワードルッキング(足元から計画を立てる)」であるのに対し、気候変動分野は「バックキャスト(あるべき姿を先に描いて導き出す)」で、考える方向軸が真逆です。2050年カーボンニュートラルを目指すには、今後30年という短期間にエネルギー政策と気候変動政策をつなげなければなりません。

昨年12月、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)が開催されました。国ごとの「多様な道筋」の考え方が確認され、再エネだけ

でなく原子力など多様な技術が中立的に評価されるという成果もありましたが、▽1.5℃に抑えるという極めて高い目標の踏襲▽膨大な資金需要—という宿題(課題)も示されました。

COP28の成果と宿題(課題)

COP28の成果文書の最大の特徴は「化石燃料からの移行」に合意したことではなく、「それぞれの国情、道筋、アプローチを考慮し、国ごとに決定された方法」という「多様な道筋」の考え方が確認されたこと。

原子力、CCUS(CO₂を回収・貯留し再利用する技術)、低排出車、低炭素素など多様な技術が認められた。

その一方、大きな宿題(課題)として「1.5℃目標の踏襲」「莫大な資金需要」が示された。

GX実現に向けた 政策の展望

こうした課題を背景に日本では、CO₂削減を目指すカーボンニュートラルに留まらず、付加価値を創出し、社会の持続可能性を高める「GX(グリーン・トランスフォーメーション)」が進められています。

GX基本方針の具体化に向けた施策

「規制・支援一体型の投資促進策」と
「成長志向型カーボンプライシング」
の併用

「投資促進策」の具体化

「カーボンプライシング」の具体化

現在、国は「GX基本方針」の柱として、「規制・支援一体型の投資促進策」と「成長志向型カーボンプライシング」を打ち出しています。米国は税額控除などの補助が、欧州は排出量取引などCO₂排出にコストがかかる状態をつくる規制が政策の柱です。日本はその両者を時期によってうまく使い分けようとしています。当初10年は前者でムーブメントをつくり、それ以降は後者に重心を移していくというものです。

講演2

気候の危機にどう向き合うか

ゲスト講師



えもり せいだ
江守 正多氏

東京大学
未来ビジョン研究センター 教授

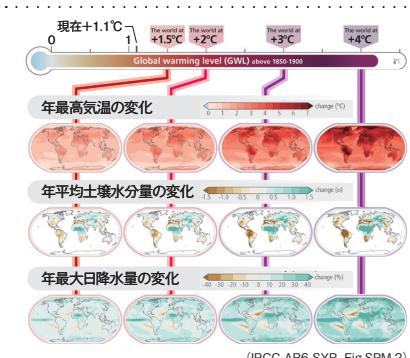
地球温暖化が進むと 何が起ころのか

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の最新報告書によると、温室効果ガスの排出量がすごい勢いで増えてきたことが分かります。中でも化石燃料・工業起源のCO₂排出量が年々増えており、大気中の濃度は産業革命が始まった頃の280ppmから現在の420ppm超となっています。

世界の平均気温は産業革命前から1.1℃ほど温暖化しており、これは人間活動によって説明できるということが分かっています。2100年になると、気候変動対策をした場合は産業革命前から1.5℃や2℃の上昇で温暖化が止まります。しかし、対策をしなかった場合は4〜5℃以上も上がってしまう。こうなってしまうたら大変です。

記録的な干ばつが起こり、その一方で、今までの記録を更新するような強い大雨が降るようになります。3〜4

温暖化が進むごとに極端現象が増加する



気候変動対策の 意義と現状

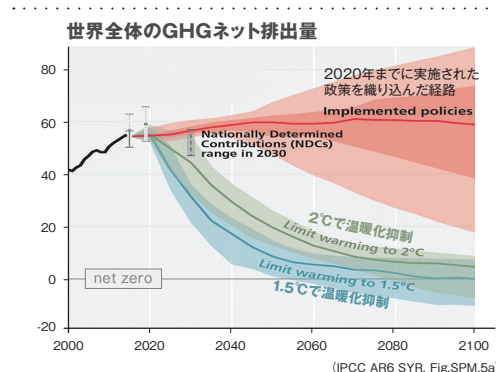
この地球温暖化を止めるため、パリ協定では「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」ことが採択されました。IPCCの報告書では、気候変動対

温室効果ガスをほとんど出していない貧困問題を抱える国なのです。℃温暖化すると、熱帯地域はほとんどの生物種にとって絶滅の危機にさらされる状況になり、一年中、死に至る熱中症を引き起こす平均気温・湿度となります。こうした被害を最も受けるのは、

策を早く実施することで、温暖化の影響を抑えられるだけでなく、▽大気汚染が削減され健康に非常に良い効果をもたらす▽貧困国を含めた公平性が改善できる機会になるなど—さまざまな利点があるとしています。

しかし、世界のエネルギーの約8割は未だに化石燃料で賄われており、現状の温室効果ガス排出削減ペースでは全く足りません。転換のスピードも投資も全く足りておらず、インフラや社会のシステムなどが、化石燃料依存のパターンから大きく抜け出せていないのです。大事なことは、脱炭素化の敗者を生み出さないように配慮し、社会の調整スピードを加速させることです。皆さんもこの問題を深く理解していただき、気候変動対策の加速的取り組みに挑戦していただきたいと思っています。

現状の排出削減ペースはまったく足りていない



これまでのセミナーの内容は当会ホームページの「わかりやすく学ぶエネルギー学校」からご覧いただけます。

<https://www.fukui-kan-ene.net>



主催 福井県環境・エネルギー懇話会
TEL.0776-33-7050 〒918-8004 福井市西木田2-8-1 福井商工会議所ビル6F

共催 福井県経済団体連合会
福井商工会議所